

氏名	服部 孝 司
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第 6 4 2 号
学位授与の日付	昭和 4 9 年 1 2 月 3 1 日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第 5 条第 2 項該当)
学位論文題目	合成樹脂接着剤による乳臼歯咬合面窩溝の立体的観察
論文審査委員	教授 大内 弘 教授 田中早苗 教授 小倉義郎

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

乳臼歯咬合面窩溝はう蝕の初発，好発部位とされ，その解明の一端として窩溝形態に関して種々論議されている。

従来より窩溝の形態学的研究として，研磨あるいは切片標本による方法でなされてきた。しかしこれらの方法では窩溝を平面的に観察できるのみで，立体像としての観察は不可能である。

永久歯臼部窩溝に関しては直接パラフィン包埋法を応用し，一塊の立体像として究明されているが，特に乳歯については私の寡聞のためかみられない。

そこで抜去乳臼歯 2 9 2 歯を用い，合成樹脂接着剤を咬合面窩溝に填塞，その填塞状態の結果にもとずき，咬合面陰型標本を作製し，一塊の立体像としての観察をおこない，さらに初期窩溝う蝕における判定，咬合面中央溝の連続状態について実験的研究をおこなった。

その結果，切片標本における窩溝形状の頻度は，浅い V 型の窩溝が大部分を占め，2 5 3 例中窩溝内異物を認めた 4 例を除き，2 4 9 例に窩溝底まで完全に本剤の填塞を認め，填塞状態は良好であった。

肉眼的所見による窩溝の陰型は，一塊の明瞭な立体像として全貌を表わすことができ，窩溝は突出的に，咬頭および隆線は陥凹して観察された。

実体顕微鏡による陰型標本では，正常歯は白色，無色の色調を呈するものが約半数を占め，表面は滑沢であった。初期う蝕歯は褐色，黒褐色が大部分を占め，表面は粗雑であった。

また初期う蝕における判定について，視・触診による臨床的所見と陰型標本による

実体顕微鏡所見との間に 8.1%の不一致を認めた。

中央溝の連続状態について，上顎第 1 乳臼歯では近遠心部が連続されていたもの 87.5%，臨床的所見と実体顕微鏡所見とに 4.2%の不一致を認めた。上顎第 2 乳臼歯では 14.3%が連続され，11.4%の不一致，下顎第 1 乳臼歯では 47.6%が連続され，9.5%の不一致，下顎第 2 乳臼歯では 40.0%が連続され，15.0%の不一致を認めた。

論文審査の結果の要旨

本研究は，乳臼歯咬合面溝の立体構造をシアノアクリレート接着剤充填による陰型標本を用いて研究したものであるが，従来十分観察できなかつた裂溝深部の立体構造を明かにし，また初期う蝕像をこの方法で観察しうることを示したもので，価値ある業績と認める。

よって，本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。